

NEET Anniversary (ニート一周年)

間もなく定年退職後一年になる。昨夏、現役の数学系教員諸氏がICMに集中していたころ、筆者は、自称NEET（無職・無学・無能）として、京都で「数学史の研究会」に出席していた。もともと、括弧内は筆者の必要条件ではあるが、NEETの語法としては正確ではないらしいが、筆者の現況は外界と途絶して「引籠もり」にも近い。数学三昧の隠者の生活を送っているわけではない。むしろ、料理・掃除・洗濯などの家事に結構時間をとられてもいる。考えようによっては、現役時代より人間としての総合力は上がったとも言えるかも知れない。

退職前から予測していたことは発表機会の激減である。発表といっても、授業中の雑談や同僚との会食や会議での会話・私語の類まで含むのだが、一方、学術論文の公表についても最近のように掲載料が要求される場合が増えると研究費のある共著者が欠かせまい。公表機会が不十分で公正な批判は前提にならなければ、長年温めていた主題であっても満足な研究の展開は期待しにくからう。しかも、この期に及んでも、全く新しい発想が結構あるように思えるのである。もちろん全く私的な主題に関しては発表機会の有無など問題にもならないが。

ところで、ようやく最近ホームページを立ち上げてみた(<http://www7b.biglobe.ne.jp/~yoshikawa/>)。ソフトのやや粗雑な適用の結果で、みっともない代物であるが、数学やその周辺に関係する若干の原稿をpdf化して貼り付けた。昨夏の研究会の講演予稿や遅まきではあるが最終講義原稿などである。しかし、本来はhtmlファイルにしておくことが望ましいようであり、整備は万事これからではある。

これだけなら、言わば私怨を晴らしつつあるという報告に過ぎず、この場にふさわしくない。一月号の「数学戯評」との関連で言えば、「網上談話会」とでもいうべきものが構想されてよいかかねてより思っているのである。ただし、かつての「紙上談話会」との共通点は日本語で書かれた数学の論説であるということくらいであって、「網上談話会」では形式的な完成度を必ずしも要求しない。しかし、示唆に富み、展望を開くものであることが重要である。その記事が優れた数理的な業績の産出のきっかけになることを目指せばよいと考えている。

主要な寄稿者たちとして日本語を母語とする人たちを想定している。今日の学術論文は英文が標準でありながら、特に、アイデアの背景説明の点で、これらの人たちの英文は読み書きいずれの観点からも決して十分ではないように思われる。非形式的な議論や発見的な考察には母語に勝るものはないのであり、この段階での自由な、しかし、ある程度の記録性を伴った意見交換の場が必要なのではないか。そういう場は、商業的にも、また、学術上の業績評価の対象としても、なかなか成り立ちにくいであろう。しかし、ネット上でなら、適切な運営形態の工夫のもとで成立するのではないだろうか。 — と、こう考えているわけである。

具体的には、どうするか。そこが問題である。寄稿者が勝手に書いた文章を集めるだけでは混乱するだけであろう。当然、査読や編集を前提にしなければならないが、編集権限の内容と行使の方針を予め明確にしておかないと、今度は意見の不一致がもとの口論ばかりで動きがとれなくなるであろう。さらに、ネット上の論説である以上、その特徴として可能な、実時間での議論の成長というべきものを混乱なく実現させるための方策も欠かせない。また、置かれるべき特定のサイトをどうするか、保守や運営の経費をどうするかなど、考慮すべきことは多い。その上、商業的には疎外されているはずだとは言っても、ここの記事から出版や、あるいは、特許に至るようなものもあるであろう。そういう権利関係についても気になる点がある。他にも配慮熟考すべきことは枚挙に暇がない。皆様の知恵をお借りしたいと切望する次第である。

筆者のように、退職し、したがって、がつつと業績争いをする必要もないが、なお、必ずしも完全には私的な世

界に逼塞できないという老人は数多いであろう。こういう人たちが、おのれだけでなく後進のことをも慮りながら、活動する場としても、「[網上談話会](#)」が成り立つのではないかと考えている。その記事としては、[上述の筆者のサイト](#)中のいくつかの稿のようなものを、取りあえずは、念頭に置いているのだが…。